



「思い込みでお勧めする 10 冊選」

(順不同)

○ 『美術館の舞台裏 魅せる展覧会を作るには』 (ちくま新書)

高橋明也／著 筑摩書房 2015 年

書誌番号：3-0500330004 ISBN：978-4-480-06861-3

著者は現・三菱一号館美術館長。西洋近代美術の企画展実施の舞台裏の仕事を始め、実体験に基づいたリアリティのある情報で学芸員の仕事が紹介されている。

○ 『日経 五つ星の美術館』

日本経済新聞社／編 日本経済新聞出版社 2007 年

書誌番号：3-0207076730 ISBN：978-4-532-16641-0

文化活動の価値は数量では測れないが、国内主要公立美術館 134 館について、一定の基準での格付けを試み、集計がまとめられた本。横浜美術館は偏差値 77.7 で、総合第 1 位。

○ 『横浜美術館コレクション選』

横浜美術館／監修・編集 横浜美術館 2014 年

書誌番号：3-0500229366

開館 25 周年を記念して横浜美術館の選りすぐりの収藏品 120 点余りを掲載・紹介した同館発行の図録。同館の収集方針や所蔵品のうち特にどれが絶品か、早わかりにうってつけ。

○ 『謎の十字架 メトロポリタン美術館はいかにして世紀の秘宝を得たか』

トマス・ホーヴィング／著 田中靖／訳 文藝春秋 1986 年

書誌番号：3-0190220472

メトロポリタン美術館長になった著者の一美術品収集の冒険譚。30 年以上前の刊行本だが、驚きと共に美術館学芸員の仕事とはこういうものかと教えられた、選者思い出の 1 冊。

○ 『岡倉天心』 (ミネルヴァ日本評伝選)

木下長宏／著 ミネルヴァ書房 2005 年

書誌番号：3-0205015798 ISBN：4-623-04326-6

美術館の建設が構想された明治維新後の日本において、重要な思想的支柱となった人物が横浜出身とされる天心・岡倉覚三。横浜美術館をひもとくならまず天心を知ることから。

○『原三溪翁伝』

藤本實也／著 三溪園保勝会／編 横浜市芸術文化振興財団／編

思文閣出版 2009年 書誌番号：3-0209089004 ISBN：978-4-7842-1476-1

天心と並んで横浜の近代美術において忘れてはならない人物が、三溪・原富太郎。三溪に庇護された美術家たちの作品収集は、横浜美術館コレクション収集方針の柱の一つ。

○『藤森照信の特選美術館三昧』

藤森照信／著 藤塚光政／写真 TOTO 出版 2004年

書誌番号：3-0204049017 ISBN：4-88706-236-2

美術館案内は数多かれども、本書は建築史家ならではの視点により、収蔵作品自体より各美術館の建築の意味がわかるユニークな美術館紹介。それを説得する掲載写真も魅力。

○『美術館をめぐる対話』（集英社新書）

西沢立衛／著 集英社 2010年

書誌番号：3-0210074866 ISBN：978-4-08-720564-0

気鋭の建築家と美術館に関わる5人、青木淳、平野啓一郎、南條史生、オラファー・エリアソン、妹島和世の対話集。エリアソンは「ヨコハマトリエンナーレ 2017」の出品作家。

○『アートは資本主義の行方を予言する』（PHP新書）

山本豊津／著 PHP 研究所 2015年

書誌番号：3-0500305930 ISBN：978-4-569-82617-2

現代美術を扱ってきた老舗画廊主が、戦後美術と共に生きた中から、現代アートは同時代の社会で起こるすべての事象にかかわる価値と意味を持つということを解いている。

○『How global can museums be? 美術館はいかにグローバルになれるのか?』

内田伸一、他／編 CIMAM〔国際美術館会議〕2015年次総会東京大会実行委員会

〔事務局 森美術館〕 2016年

※こちらは、横浜市立図書館では所蔵がありません。横浜美術館美術情報センターにてご覧いただけます。

世界の美術館を代表する260名が参加し、美術館で働くプロフェッショナルが抱える主要な課題を討論した大会の記録。美術館が抱える諸問題の最前線を知ることができる。